

日退教
事務局だより
15-6

日本退職教職員協議会

発行責任者 竹田邦明

2015年8月7日

日退教第6次沖縄交流

「辺野古新基地建設反対・キャンプ・シュワブゲート前座り込み行動」

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設計画について、政府と沖縄県は、さる4日、今月10日から9月9日までの1ヶ月、移設計画に関する一切の工事を停止し、移設問題について集中的に協議することで合意しました。期間中、県が求めてきた米軍キャンプ・シュワブ沿岸域の臨時制限区域への立ち入り調査も認められる予定です。

両者の合意事項は(1)8月10日から9月9日までの間、移設問題について断続的に協議する(2)期間中、政府は移設作業や事前協議書に関する対応を全面的に停止する(3)期間中、県は承認取り消しなどの法的、行政的な手続きを行わない(4)期間中、県が岩礁破碎立ち入り調査を実施する一の4点。

国と県との協議期間が設定されたことで、早ければ「この夏」(中谷元・防衛相)としていた埋め立て本体工事の着手は10月以降にずれ込む公算が大きくなったと地元紙は報じています。

菅官房長官は会見で「普天間の危険性除去と辺野古移設に関する政府の考え方や沖縄県の負担軽減を目に見える形で実現したいという取り組みをあらためて丁寧に説明したい」と述べています。

この事態を安倍政権の支持率回復狙いとする向きももちろんありますが、戦争法案反対の全国の運動が追い込んだ結果といえます。

この状況の中でも、新基地建設反対を訴える県民の運動は気を抜くことなくとりくむことを確認しており、5日朝も、建設阻止を訴える県内議員や市民ら約150人が米軍キャンプ・シュワブゲート前に集まりました。「作業が一か月中断することになった。その間に、新基地阻止に向けた世論の広がりを推し進めよう」と呼び掛けました。

日退教第6次沖縄交流「辺野古新基地建設反対・キャンプ・シュワブゲート前座り込み行動」は今後8月31日、9月28日、10月26日に予定しています。



日退教第6次沖縄交流「辺野古新基地建設反対・キャンプ・シュワブゲート前座り込み行動」の記録

- 5月17日 参加者 北海道退教7名、神奈川高退教2名、京都退教2名、福岡退教4名、事務局1名
- 6月22日 参加者 事務局1名
- 7月06日 参加者 東京高退教13名、神奈川高退教9名、神奈川高教組1名、神奈川県2名、石川高退教2名、福岡退教1名、事務局1名

5/17 テントで。午後から県民大集会に合流



7/6・7 この月の行動は東京高退教の企画に合流



東京高退教からカンパを贈呈



戦争法案・地方公聴会に公述人として出席した名護市稲嶺市長が懇親会にサプライズ参加。(元都高教職員金城さんの紹介)



高江ヘリパット建設反対のテント村へも